

美 人

be a **GOOD** neighbor !

April

2017

vol.

01

みそのびと

ここから、はじまる。

美しき園、美しき人。

みそのびと

『美園人』創刊

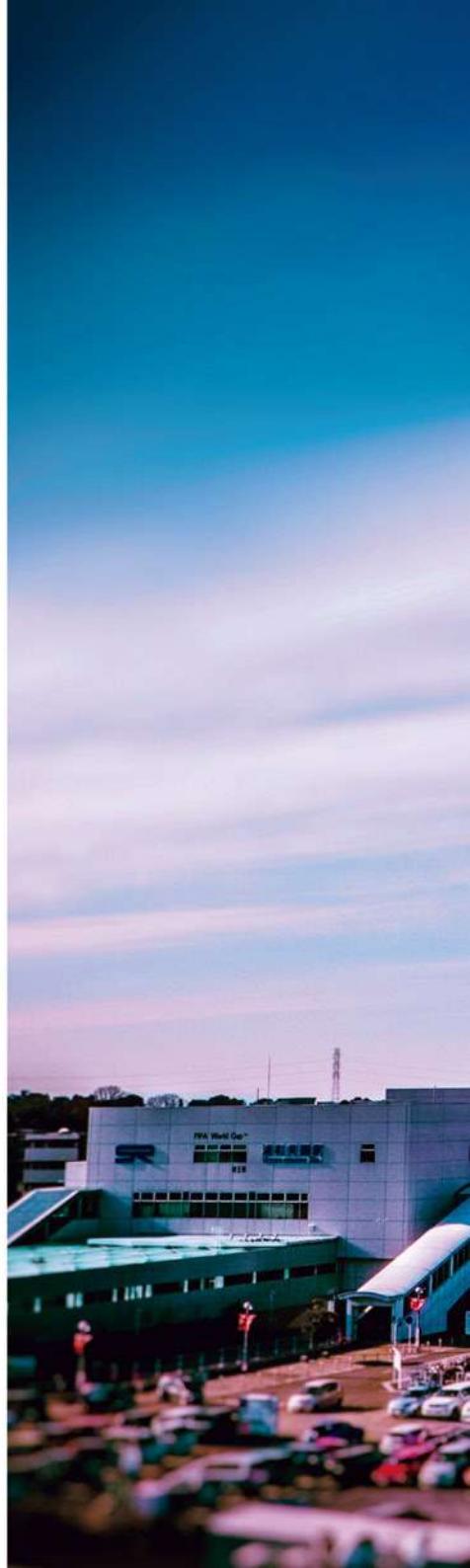
v o l.
01

美園人

be a GOOD neighbor !

CONTENTS

- 04 ここは「文明の十字路」美園に暮らす
青木 義脩
- 06 「みそのいち」で出会った、とっておき。
④ 第10回「みそのいち」
- 08 「美園」からはじまる、そして市内全域へ
有山 信之
- 「美園」に相応しい仕掛けで“民”的パワーを引き出していく
岡本 祐輝
- 10 みその“健幸”度向上プロジェクト 実証実験
「美園サイクリング&ウォーキング」
- 12 「美園」の秘めた可能性を、
「付加価値」として魅せていく
荻野 洋
- 14 「毎週のように交流イベントが行われるまち」を目指して
④ 浦和美園駅ホーム BAR
- 16 「美園」の都市づくり ー今とこれからー
まち
「美園人」からのおすすめスポット
- 18 vol.01 埼玉スタジアム 2002 公園



ここから、はじまる。

美しき園、美しき人。 「美園人」

まちはどのようにつくられてきたのでしょうか。まちはどのように育っていくのでしょうか。

「美園（みその）」という地名には、清らかで温かな響きとともに、

この地の豊かさと誇り、人びとの叡智と交わり、無限に拡がる未来が感じられます。

「美園」のまちに集う人、暮らす人。その営みを互いに支えあうこと、分かちあうこと。

みんなが「良き隣人」どうしであり続けられるよう

「美園人（みそのびと）」は、応援していきます。

新しい春がやってきました。

2017年4月「美園人」、はじまります。



ここは「文明の十字路」美園に暮らす

青木 義脩

「美園人」創刊にあたり、旧・浦和市教育委員会で文化財の保護に携わっていた青木義脩さんに、このまちの成り立ちについてお伺いしました。“ニュータウン”という印象の強い「美園」ですが、その意外な歴史とは。

3万年前から人びとの営みが続く「豊かな地」

綾瀬川と見沼に挟まれた「美園」は、人びとが生活するにはちょうど良い高台。ここに気づいた昔の人は本当に偉いと思います。この地での人びとの歴史のはじまりは3万年前。谷は今より深く、動物が現れては水を飲みにきており、早くも長野県地方や栃木県の高原山の黒曜石などが入ってきました。縄文海進後に沿ができるとさらに水生生物が棲み、水鳥も獣も集まり…絶好の漁労狩猟の場となったのです。そばには山林もあり、根菜や木の実がふんだんに揃います。「美園」からは中部山岳や東北地方また東関東の様相を持った土器も出ています。つまり、道があり「交易」があったのです。台地上は、人が住まうには利用しやすく、自然と村が形成されました。弥生時代になると谷にはコメが植えられ、水田地帯となっていました。約2千年前のことです。

人びとはその集団だけでは生きられない、そこに「交易」が生まれる

その後も「美園」では、農業が生活の基盤でした。弥生時代には栃木県や熊谷市方面の土器もやってきています。これは陸路や水運を利用した「交易」があったことを意味します。人びとは、自分たちだけで完結して生きていくことは無理です。だから必要なものを交換していたのです。

北関東や東北からは最南端、中部から見れば最東端、東関東からは西の端。東西南北に開けた「美園」は、まさに「文明の十字路」ともいえるでしょう。どこからも遠い場所、ではなく、常に大動脈の要衝なのです。



青木 義脩 (あおき ぎしゅう)

1943(昭和18)年栃木県生まれ。明治大学で考古学を専攻後、旧・浦和市教育委員会で文化財保護行政を担当。市史編さんにも携わり、数々の発掘調査を実施、「見沼通船掘」復元を手がけた。緑区歴史の会会長、日本考古学協会等会員。



新田開発から発展した、見沼の水運とエコシステム

自然の沼だった見沼は溜池となりましたが、さらにコメを作る必要があり、享保の改革で見沼自体が水田に変わりました。年貢米を江戸に運ぶために水運も整えられ「見沼通船堀」を経て、コメをはじめ薪炭、蔬菜、植木、柿渋なども運ばれました。「安行苗木・植木」や「赤山渋」は、よく知られている地域ブランドです。江戸から船が帰る折には、雑貨、砂糖、塩、干した鰯や油粕などの肥料といった生活必需品が運ばれてきました。また、巨大都市江戸の下肥も運ばれ水田の肥料となる。清潔さを維持した江戸は、農業生産にも益したといえます。水運を通じたエコシステムですね。

3つの村が合併してできた「美園村」

1889(明治22)年、市制・町村制施行により地方行政が始まり、野田村、大門村ができました。その後、戸塚村(現在は川口市)と合併し1956(昭和31)年に「美園村」が生まれました。3つの村がいざれも美しい植物園の様相で「安行苗木・植木」「赤山渋」に代表される地域ブランドの産地である…まさに名前の通りの村でした。

1967(昭和42)年の埼玉国体に合わせ、かつての武州鉄道のあとに国道122号のバイパスが建設され、続けて東北自動車道が開通、2002(平成14)年のFIFAワールドカップを機に埼玉高速鉄道で都心とも結ばれました。近年の「交通」の整備により、また「交易」が生まれます。太古の歴史を秘めた「文明の十字路」である「美園」は、今後も美しい発展をしていくことでしょう。そう、その名のごとく。

「みそのいち」で出会った、とっておき。

「美園」とその周辺は、豊かな土壌と人びとの創意工夫により、古くからコメ、植木、蔬菜の一大生産地でした。その恵みを今に伝えるとともに、生産者と消費者をつなぐ試みとして昨年5月にスタートした、地域密着型マーケット「みそのいち」。回を重ねるごとに『毎月最終金曜日は、「みそのいち」の日』が定着してきました。



保己農園の
「イタリアンチコリ」
100円



片柳農産物加工組合の
「藏造り 農家の田舎味噌」
400円



菓子工房 えとわあるの
「さくら餅」
110円

保己農園さんは、イタリアン、フレンチに合う野菜を専門とする農家さん。西洋菜花の取り扱いが豊富です。今回ご紹介いただいたイタリアンチコリは目にも鮮やか。「食材そのものに華があるので、食卓にあがるだけで話題となれば。」

いつも「みそのいち」には季節の果物を出品しているKMフルーツジャパンの守屋さん。今回は果物のオフシーズンということで、親御さんがつくった「田舎味噌」をすすめてくださいました。「見沼田圃」のコシヒカリも使ってています。

岩槻区の、えとわあるさんからは、季節の和菓子「さくら餅」をご紹介いただきました。その他にもできたての草餅、お団子などが並びます。「お団子は何も混ぜものがありません。その日のうちに味わってください。歯ごたえが全然ちがいますよ。」



DATA

第10回「みそのいち」

開催日:2017年2月24日(毎月最終金曜日開催)

時間:15:00~19:00

会場:埼玉高速鉄道「浦和美園駅」改札口前

主催:(一社)美園タウンマネジメント

協力:埼玉高速鉄道(株)

後援:さいたま市

地元農家の皆さんに会って、愛情が込められた野菜や果物、枝物などを直接購入できることが「みそのいち」最大の醍醐味。おいしい食べ方、おすすめの献立、野菜づくりの裏話など、コミュニケーションをとりながら買い物を楽しむことができます。今回は5つの農家が出店。みなさんにおすすめの逸品を紹介していただきました。



ブルーベリープラザ浦和の
「ハイグレード ブルーベリージャム」
600円



堀口さんの「枝桃」
500円



埼玉高速鉄道から
「たまさぶろう」もやってきました。

「美園」の農園で、苗木から自家生産したブルーベリーを使った、無添加ジャム。摘みたての爽やかさと濃厚な風味を楽しむことができます。お客様の要望にこたえ、野菜もつくっているとのこと。当日は、季節の葉物・根菜・果物も並んでいました。

枝物農家の堀口さん。「みそのいち」では季節にあわせ、蝦夷、銀香梅、珍しいものでは“キウイのつる”もご紹介されたとのこと。「部屋に枝物があるだけで、ぐっとお洒落になりますよ。大宮台地の縁にある川口や安行は、昔から枝物が盛んなんです。」

会場にやってきたのは、埼玉高速鉄道のマスコットキャラクターである「たまさぶろう」。登場するやいなや、握手や写真撮影を求めて、多くの人が集まる人気者です。各店舗をまわりながら「みそのいち」をぞんぶんに盛り上げてくれました。



岡本祐輝(写真左)
有山信之(写真右)

「美園」からはじまる、そして市内全域へ

さいたま市 環境未来都市推進課

有山 信之

私たちが取り組んでいる“誰もが住みたい、住み続けたいと思うまち”の実現には、これまでにない“安心・安全・快適・便利”なライフスタイルの提供と魅力ある都市空間が必要となります。難しい課題ではありますが、総合生活支援サービス構築を担う「美園タウンマネジメント協会」と、良好なまち並み形成を担う「みその都市デザイン協議会」が協力しあうことでの、ソフト・ハード面共に実現可能になると考えています。

少し窮屈になりがちな省エネといった環境・エネルギー分野への取り組みも、気がついたらエコな生活をしていくという感覚で参加できる仕組みを整え、次世代を担う子どもたちにサステナブルなまちを残す使命を果たしていきたいです。

多様化、高度化している住民ニーズにも対応できる柔軟さをもって、この取り組みをまずは「美園」で実現し、市内全域へ展開していくことを目指しています。

「美園」に相応しい仕掛けで“民”的パワーオフを引き出していく

アーバンデザインセンターみその (UDCMi)

副センター長 岡本 祐輝

新市街地づくりが進む「美園」のまちづくり情報発信・活動連携の拠点として、2015(平成27)年10月に「アーバンデザインセンターみその(以下UDCMi)」はオープンしました。

公共・公益サービスを担う“公”と、まちの活力向上を担う市民・企業などの“民”に、新たな知見・技術を提供する大学等の“学”を加えた“公民+学”。この3つをつなぐ、つまり「美園」に関わる人や組織の活力・アイデアを引き出し、まちの未来に向けてチャレンジする連携・コラボを促進させることがUDCMiの基本理念です。様々なプロジェクトがUDCMiを起点に構想され、仕掛けられはじめています。産直イベント「みそのいち」や、健康増進プロジェクト、自転車等のシェアリング事業など、企画検討を経て実践段階に移行したものも徐々に増えてきました。「美園」は広域交通アクセスに優れているだけでなく、見沼田圃・綾瀬川などの水・みどり資源やアジア屈指のサッカー専用競技場「埼スタ」もあります。こうした魅力を活かしつつ、住民にとって誇れるまちづくりを加速させていければと思います。

みその“健幸”度向上プロジェクト 実証実験 「美園サイクリング＆ウォーキング」

2016（平成28）年「無理のない運動習慣づくり」を促す取り組みの一環として、専用の「活動量計」を用いた実証実験「美園サイクリング & ウォーキング」が実施されました。こちらは、歩行量や自転車走行距離に応じて「活動量ポイント」が付与される試み。ここでは「活動量計」等のハード面と実験の流れについてご紹介します。

① はかる

専用活動量計（タニタ AM150）

表示部

総消費カロリー、歩数、活動エネルギー量など
が表示。「活動量計」本体には30日分のデータ
が蓄積可能。

WAON Felicaトークン

本体の裏側にはWAON Felicaトークンが内蔵。専用のタッチスタンドにトークン面をタッチすることでポイントが貯まる。



自転車モード切り替えボタン

ボタンを押してモードを切り替え。自転車に乗ったときの活動量も測定。

② おくる

専用タッチスタンド

タッチして「活動量計」のデータ
を送信すると、情報がサーバに
保存される。ヘルスステーション
からも送信可能。



③ しる

専用サイト「からだカルテ」

「活動量計」のデータを閲覧できるサ
イト。実証実験参加者がログインする
ことで、計ったデータがグラフになって
表示。他にも健康トピックなどの役立
つコラムも。



実際に、「サイクリング＆ウォーキング」をやってみました。



自転車に乗ってスタート

「活動量計」を持って出発です。今回はまず自転車に乗るので、「自転車モード」に切り替えてから活動量を測定しましょう。



「活動量計」のモード切り替え
活動量を正しく計測するために、
自転車モード切り替えボタンを長
押しし、通常の歩行モードへ。



活動量はポイントとして貯まります

1日あたりに歩いた歩数は、「活動量ポイント」として記録されます。例えば65歳未満なら1日に8,000歩以上歩くと5ポイント付与。貯めたポイントはWAONに交換可能。



専用サイトにログイン、グラフで確認

タッチスタンドやヘルステーションから送信されたデータは、随时グラフ化されます。体組成計や血圧計のデータもあわせて、健康状態をチェック。

(同時間帯)

「イオンモールウォーキング」

イオンモール浦和と美園を中心に、対象WAONカードをタッチすることで健康ポイントを付与。貯めたポイントはWAONに交換可能。

「タニタいきいき元気教室」

「美園サイクリング＆ウォーキング」に参加する65歳以上の方を対象に、要介護、寝たきりにならないためのプログラムを実施。

DATA

美園サイクリング＆ウォーキング

募集開始:2016年6月15日

実施期間:2016年8月1日～12月31日

モニター:美園地区在住・在勤の18歳以上の方700人
企画運営:(株)タニタ、イオンリテール(株)、フェリカボケットマーケティング(株)、(一社)美園タウンマネジメント、さいたま市



M E S S A G E 一創刊によせて—

「美園」の秘めた可能性を、「付加価値」として魅せていく

埼玉高速鉄道株式会社 代表取締役社長

荻野 洋

2002(平成14)年のFIFAワールドカップに先駆け、2001(平成13)年3月28日に開業した埼玉高速鉄道。

「美園」のシンボルのひとつである「埼玉スタジアム2002」と都心とをつなぐ路線でもあります。

「美園人」創刊にあたり、代表取締役社長の荻野洋さんに、おもいをお聞きしました。

荻野 洋 (おぎの ひろし)



埼玉県出身。1970(昭和45)年東京大学卒業、1977(昭和52)年米国インディアナ大学留学(修士)後、日本国有鉄道(現JRグループ)入社。JR東日本本社広報部長を経て、1997(平成9)年盛岡ターミナルビル社長、2000(平成12)年JR東日本取締役盛岡支社長、2003(平成15)年日本レストランエンタプライズ社長、2009(平成21)年同社会長、2011(平成23)年日本ホテル会長。2014(平成26)年より現職。

「美園」と都心を「一本の線」でつなぐ 埼玉高速鉄道

埼玉高速鉄道は、東京メトロ南北線とつながっています。線をたどれば本当に東京の真ん中です。私たちはこれをを利用して、地域を盛り上げようとする「線の動き」を活性化させていきたいと考えています。「埼玉高速鉄道沿線」と聞けばどこに住んでいるのかがわかる、というほどに認知度を向上させ、ブランディングを進めたい。これは、鉄道会社的に言いかえれば、都市部から「美園」への人の流れをつくる、定住人口を増やすという試みになりますでしょうか。

美しきオアシス「見沼田圃」を「魅せる」

では「美園」へ訪れたいと感じてもらうにはどういう仕掛けを考えればよいのか。

「美園」は、高いポテンシャルを秘めたまちです。ですから「魅力づくり」というよりは、まず既に在るもの「魅せる」ということを考えていきたい。例えば、江戸時代の新田開発で誕生し、現在までその景観が守られている広大な「見沼田圃」。これは都心に住む人たちにとっては大きな魅力です。観光化というと大げさですが、東京の真ん中から高尾山に行く感覚とそう変わらないようになればと。

「浦和美園駅」を起点とした総合的なまちづくり

私は「アーバンデザインセンターみその（以下UDCMi）」が進めている自転車シェアリング事業に期待を寄せていました。自転車があれば「見沼田圃」はぐっと近くなる、知ってもらえる。発信の仕方によって情報の届き方はガラッと変わります。魅力を伝えるには、総合設計的な発想を求められます。「浦和美園駅」を起点として自転車で散策できるというのは「美園」の魅力を引き出し「付加価値」へと昇華されることにつながるのです。

また「美園」は、UDCMiが中心となって、住宅街や道路だけでなく、住む人たちの「コミュニティ」をどうつくっていくか、ということに総合的に取り組んでいます。これはまちの「新しい付加価値」ですね。

「訪ねて楽しいまち」と「住みやすいまち」、実はこの2つは一致するのです。

集まる、拡がる。一斉に開花する桜のように、影響力のあるまちへ

「美園」周辺は安行に代表されるように植木の一大産地です。ここで接ぎ木され全国へと旅立った桜が春に一斉に花開き人びとを魅了するように、まちの「付加価値」があがり、認知されるようになってほしい。そのため私たちは連携していきたいと考えています。

鉄道を通じて「美園」に人びとが集い、交流する。

そして、その魅力が鉄道によって、都心へ、その先のまちへと、また届けられるというように。

「毎週のように交流イベントが行われるまち」を目指して

「えっ!? ホームが酒場?」——。2017(平成29)年2月25日、「浦和美園駅」では普段使用されていない臨時ホームを開放し、ご当地のお酒やおつまみを楽しめるイベント「浦和美園駅ホームBAR」が開催されました。さいたま市初のクラフトビール「氷川の杜」をはじめ、市内の飲食店等が出店。中でも、うなぎの老舗店「ふな又」「せんべい家」のうな重弁当は、用意した100個が販売開始30分足らずで完売という人気ぶりで、地元の家族連れを中心に、多くの人びとでにぎわいました。

会場となった臨時ホームに停車した車両内が飲食スペースとなっており、電車好きの子どもたちをはじめ、非日常の空間に思わず笑顔。車両内には、浦和

レッズのクラブ設立25周年を記念したブースもあり、地元レッズファンの姿も見られました。

「美園」では、「毎週のように交流イベントが行われるまち」を目指して、地域の団体や企業と協力・連携しながら、さまざまな地域イベントが行われています。今回のイベント来場者からも「こういったイベントをもっと増やしてほしい」という声が多く聞かれました。

「美園」の地域イベントをつなぐ共通テーマは、「100年美しい園」。未来のまちづくりに向かって、住んでいる人も、訪れる人も、「美園」をもっと楽しめるよう、新しい試みが仕掛けられています。



DATA

浦和美園駅ホームBAR
 開催日:2017年2月25日
 時間:11:00~15:30
 会場:埼玉高速鉄道「浦和美園駅」3番線(臨時ホーム)
 主催:美園タウンマネジメント協会
 協力:浦和レッドダイヤモンズ(株)、埼玉高速鉄道(株)
 秩父市、(一社)美園タウンマネジメント

1 さいたま市で初のクラフトビール「氷川の杜」を開発した「株式会社氷川ブルワリー」の菊池さん。「地元企業とのコラボレーションを行うなど、地域との一体感や絆を大切に、クラフトビールをさいたまの名産品に。」との思いで取り組まれています。



MISONO VOICE

—美園の今、未来—



3 「浦和うなぎまつり」の会長も務められている「協同組合浦和のうなぎを育てる会」の大森さん。「浦和美園駅」に来たのは今回が初めてのこと。「ここはこれから発展していくまち。イベントをもっと頻繁に行って、訪れる人が増えていけば。」

2 都内から来たという電車好きの男性2人組。「臨時ホームのある駅ならではイベントなのでめずらしい」と思い、足を運んだそう。「今回は週末の中ですが、平日の夕方に会社帰りの人が立ち寄る、というコンセプトでやってもおもしろそう。」

4 東浦和にお住まいのファミリー。「うな重弁当がとてもおいしかった」と、電車内での飲食イベントを親子で楽しめた様子でした。「美園」の今後については、「子どもが遊べる場所がもっと増えるといいですね。」

MAP

「美園」の都市づくり —今とこれから—

「美園」では、「浦和美園駅」を中心に大規模な都市開発（土地区画整理事業）が進行中です。道路等のインフラ整備も進み、まちのビルドアップが本格化しています。



さいたま市
岩槻区

岩槻南部新和西地区

美園東二丁目

● 岩棚南部中央通り線

美國三工目

2015年

2016年
美國コミュニティ

2001年
浦和美園
2016年
UDCMI

● 2006年 イオンモール浦和美園

2019年 新設中学校(予定)

美國臨時グラウンド

1873年 さいたま市立大門小学校

1974年 さいたま市立美園公民館

2015年 湘和ルーテル学院

釣上



200m

凡例

- みそのウイングシティ(土地区画整理事業区域)
 - 公園・緑地等
 - 公園・緑地等(整備予定地)
 - 河川・池等
 - 調節池

「美園」のすてきな場所を、毎号ひとつづつご紹介していきます。

創刊号は「美園」のシンボルのひとつでもある「埼玉スタジアム 2002 公園」です。



vol.01: サッカーもレジャーも。 「埼玉スタジアム 2002 公園」

浦和レッズのホームスタジアムであり、日本代表の試合会場としても知られている「埼玉スタジアム 2002」。スタジアムを核とした「埼玉スタジアム 2002 公園」は試合のない日でも一般開放されています。今回は公園の楽しみ方をご紹介しましょう。

POINT01: 広々とした空間でリフレッシュ！

芝生広場は休日になると家族が集まるピクニックスポットとなります。また、ジョギングコースやバスケットコートでは、学生さんからシニアの方まで元気いっぱいスポーツを楽しむ姿が見られます。

POINT02: 多彩なイベントを楽しもう！

ロッカールームやピッチサイドに入ることができ、選手になった気分が味わえる「スタジアムツアーア」(不定期開催)、約 100 台ものキッチンカーが集まる「キッチンカーグルメ選手権」、フリーマーケットやランニングフェスティバルなど家族で楽しめるイベントも盛りだくさん。

「サッカー専用スタジアム」との印象が強いですが、一般の人も楽しめる工夫が凝らされた、「美園」に住もう人の暮らしに溶け込み、寄り添う、憩いのスポットになっています。

DATA

埼玉スタジアム 2002 公園
所在地：さいたま市緑区美園 2-1



「美園人」名前と
ロゴにこめたおもい

2001(平成13)年に開業した埼玉高速鉄道「浦和美園駅」を中心とした都市開発の進む「美園」。このまちは、これから発展を続けていく「新しいまち」というイメージがあります。

その一方で、大宮台地に寄り添う「美園」は、地理的、地形的に大変恵まれた豊かな場所であることから、太古の昔から人びとが暮らし、育み、交易を続けてきたまちでもあるのです。

「園」という字には「人の営み・工夫が凝らされた自然」という意味を託し、あえて漢字の成り立ちにさかのぼり、このまちの長い歴史を表現しました。それを囲む「美(しき)人」は、装飾を全て外した黒文字とし、未来につながる無限の可能性を表しています。

美園人（みそのびと）創刊号

発行日 2017年4月1日
企画・発行 みその出版 @UDCMi

お問合せ UDCMi 運営事務局：一般社団法人美園タウンマネジメント
〒336-0962 埼玉県さいたま市緑区下野田 494-1 オークリーフ 1F
TEL: 048-812-0301
info@misono-tm.org
<http://misonobito.jp/>

美園人（みそのびと）創刊号 2017年4月1日発行
企画・発行 みその出版@UDCMi 〒336-0962 埼玉県さいたま市緑区下野田494-1 オークリーフ1F TEL:048-812-0301



×

みその出版